

第6回

残しておきたい “ふるさと北播磨”

写真コンテスト入賞作品

【応募総数】 146点（57名）

【応募期間】 令和元年5月7日～令和元年12月6日

募集要項

- 1 内容 北播磨県民局管内の「残しておきたい『ふるさと』の今」をテーマとした写真にコメントを付けたもの。
- 2 主催 兵庫県北播磨県民局
- 3 後援 神戸新聞社
- 4 応募要領 平成30年12月1日から令和元年11月30日までに撮影したもので未発表のもの。応募点数は一人5点まで。作品の題名、コメント(百字以内)、撮影場所または行事名、撮影年月日、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、郵送、持参で応募。
- 5 賞 最優秀賞 1点／3万円分の図書カード
優秀賞 3点／1万円分の図書カード
佳作 20点／5千円分の図書カード
- 6 発表 審査会終了後、該当者に通知。フィルムの場合はデジタルデータ提出により受賞確定。兵庫県北播磨県民局のホームページ等で発表。
- 7 著作権 入賞作品の著作権は、撮影者に帰属。使用権は、兵庫県北播磨県民局に帰属。
- 8 活用方法 北播磨県民局管内の施設やイベントで展示、ホームページ等でも紹介。

審査員

廣岡 徹 (ひろおか とおる)

兵庫教育大学大学院 元教授

兵庫県生きがい創造協会 生涯学習アドバイザー

岡本好太郎 (おかもと こうたろう)

神戸新聞社編集局映像写真部長

濱西 喜生 (はまにし よしお)

兵庫県北播磨県民局長

《審査員全体評》

一般に絵画や写真の選考には、基本的に他との比較という要素があります。もちろん中には、一瞥しただけで、「これだ」と意見が一致する、ということもありますが、それは稀なことだと言えます。今回も、全体として、比較の中で評価の接近した審査となったように思います。佳作と優秀賞、優秀賞と最優秀賞、それぞれの差は僅かでした。ただ、その僅かにも、それなりの理由がありました。作品展をご覧いただいて、その理由を考えていただければ、とも思います。例えば、今回の入賞4作品の場合、その理由の一つに、私見ですが、最優秀賞以外は、左右横長で水平をベースに縦線や対角線が交差するという似通った構図であったことが考えられます。

また、回を重ねる毎に、定番の魅力はそれとして、もう少し冒険をして、今までにない北播磨の魅力を探し出していただければ、と思うようになりました。例えば定番の被写体では、今までにない構図や色彩による描写も可能です。あるいは地場産業における生産物そのものや収穫や加工などにおける労働の描写も被写体として面白いと思うのですが。

明治どころか昭和も遠くなりました。それらの時代を象徴する建物や街角の風景も、格好の被写体ではないでしょうか。

(廣岡審査員)

自然や名所、祭事を中心に、日常の何気ない風景に焦点を当てたものまで、応募作を通じて作者のふるさとへの温かなまなざしを感じ取ることができました。それぞれが北播磨の今を伝える貴重な一枚です。

その中で順位をつけるのは大変なのですが、独自性が問われるコンテストでは、写真に込められたメッセージがより明確なものが上位作品に選ばれています。イベントなど、カメラマンが殺到するような場所では似たような作品も多く、より入賞へのハードルは高くなります。ただ、今の時代ならではの視点が少しでも盛り込まれていれば、目を引く一枚になるはずですよ。

(岡本審査員)



寄り道

佐藤 文彦 (小野市)

撮影場所：加西市 網引町



《撮影者コメント》

穏やかな小春日和の朝、碧空からバルーンがゆっくり下降して来ました。赤い柿の実とモミジに吸い寄せられた様に見えました。地域の協力と理解があつてこの様なすばらしい景観が生まれるのでしょう。

《審査員講評》

▼過去の遠景を中心としたバルーンの写真にはない構図と青空を背景にした彩りが決め手になりました。バルーンの上方を大胆に切り取りゲージの中の人物の動きが感じ取れました。柿や紅葉の色もあり、秋空の爽やかさも伝わってきます。

(廣岡審査員)

▼鮮やかなバルーンを大胆に切り取って迫力のある一枚になりました。澄み切った青空とのコントラストが目を引きます。下降するシーンを狙ったとのことですが、山の稜線伝いに画面左方向へとゴンドラが上昇していくようにも見えるのも面白いところ。地域一体で取り組む「気球のまち」ならではの魅力を伝えています。

(岡本審査員)



山国にて

藤井 建 (西脇市)



撮影場所：加東市 原田池

《撮影者コメント》

麦秋の頃、雨季を前に沈む夕陽は、その歳の豊作を祈るかの様に深紅に燃えて情感たつぷりに明日を約束する様で。

《審査員講評》

▼電柱の繋がりが水面に映えながら、遠く向こうにつながっている。その向こうには作者の願いや希望があるのでしようか？それとも故郷？何とも幻想的な夕景となりました。「どこから、どこを撮ったの？」と聞きたくなりました。

(廣岡審査員)

▼茜色を帯びた美しい夕景が郷愁を誘います。沈む太陽の位置が絶妙で、低山が連なる北播磨の地形もよくわかり、空が高く、ため池ですら湖のように広大に見えます。日常の中で感じた感動を素直に表現できています。

(岡本審査員)

（廃線）記念車両保存

齋寺 義則（明石市）



撮影場所：西脇市 市原駅記念館

《撮影者コメント》

プラットホームや客車が当時の雰囲気そのまま体験する事が出来ます。レトロな雰囲気は、電車好きの子はもちろん、皆さん大人も子供もきつと楽しめると思います。

《審査員講評》

▼まず画面のあでやかさに惹かれました。前景の花々、カラフルな車両が、大きく左右に広がり、それに交わるかのように縦に秋の雲が流れる、という構図も画面に奥行きを感じさせました。

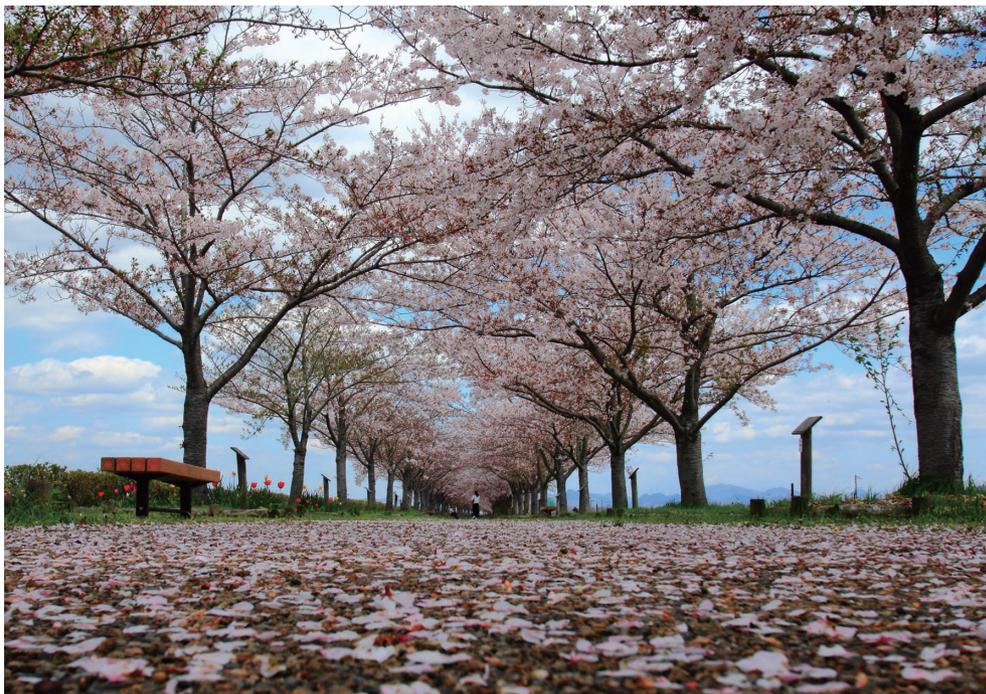
（廣岡審査員）

▼放射状に広がるうろこ雲によって、まるで車両が動いているかのように見えてくるから不思議です。空と車体のブルーに、花壇の赤い花のアクセントが効いています。センスを感じさせる一枚です。

（岡本審査員）

癒しの桜回廊

明野 敏行 (加古川市)



撮影場所：小野市 おの桜づつみ回廊

《撮影者コメント》

小野市の加古川左岸堤防に4 kmにわたり、美しい桜のトンネルとなっています。また、地面に落ちた花弁はより一層癒しさをももたらしています。

《審査員講評》

▼道の奥に収斂されていく桜並木を中央に、手前の交差する桜の絨毯を思わせる歩道と縦横の線と下からの構図が決め手といえます。中央の人物の存在については、どう解釈すればいいのか、ちよつと悩みました。自然の中の人の配置の悩ましさでしょうか？

(廣岡審査員)

▼足を埋める散り桜のじゅうたんも桜回廊の見所ですね。左右対称の構図で、まっすぐに続く道の奥行きを表現しています。中心に置いた人物の大きさが、桜のボリューム感を引き立てています。

(岡本審査員)